

ほどなあと思えばなしだったんだ……。

タケシ君は、どんなふう感じたかな？

タケシ：マナブ君が言ったこともそうだけど、今まであまり話をしていなかった人とも話せたことがよかったです。と思いました。

それと、友達の話聞いていて自分の予想とだいぶ違うなあと思ったことが、何度かありました。

担任：そうかあ。タケシ君は、友達の新しい面を見つけたんだな。すばらしいことだね。他の人はどうかな？

サチコさんはどう？

サチコ：私もタケシ君と同じで、今まで「こんな感じかなあ」と思っていた人が、ぜんぜん違うところを選



んでいたのので驚きました。それに、自分の考えをしっかり発表した人がいたのでとっても感心しました。

担任：ふ～ん、なるほどなあ……。ひとりひとり、いろいろな考えがあるんだ。みんなが、お互いに思ったことを素直に言い合えるようにしていけたらいいなあ……。

#### 4 学級活動を終えて

この実習をした日の清掃の時間。

タケシは、今まであまり話をしたことのないシズカから、『秋を選んだ理由が私と同じなんです、びっくりしちゃった』と声をかけられた。突然声をかけられたタケシは、シズカを見つめたままだった。

清掃を終え、タケシは何となくあたたかいものを感じ、“友達っていいな”と思わずほほえみながら教室へ戻っていった。

そして、タケシは……？

このような実習を何度か実施してみると、学級の子どもたちは再び活気づき、自分の気持ちや考えをのびのびと表現し始めました。

級友とのかかわりが薄かったタケシも、周囲の言動に意を注ぐようになってきました。

しかし、タケシが心を割って話のできる友達は、まだ限られています。

#### 実習を行う際の 4つのポイント

- ① 受容的、支持的なかわりを大切にす  
る。発言も無理強いしない。
- ② 感じたことなどを自由に述べ合う。  
(グループ、クラス全体で)
- ③ 選択人数が少なくても、孤立感を味わ  
わないように配慮する。
- ④ 実習の終わりには、全員で必ず振り返  
りを行う。